

S協の厳しい現実

～ 会員減少が続くS協の台所事情 ～

近年、高齢化に伴い会員数が減少する傾向にありましたが、コロナ禍の影響もあり、2021年度の会員数は11,173名となり、2020年度13,191名に対して18%の大幅な減少になりました。これによりS協の収入の大部分を占める会費収入も大幅な減少となりました。そのため、今後、SDの普及活動、会員サービスと組織体制を維持するため、課題対策特別委員会、執行理事会、理事会で抜本的な対策について検討・審議して参りました。今後、事業の重点化、経費の節減を図るとともに、法人化に当たり準備した固定資産（基本財産）の活用、会費の見直しが避けられない状況になっています。

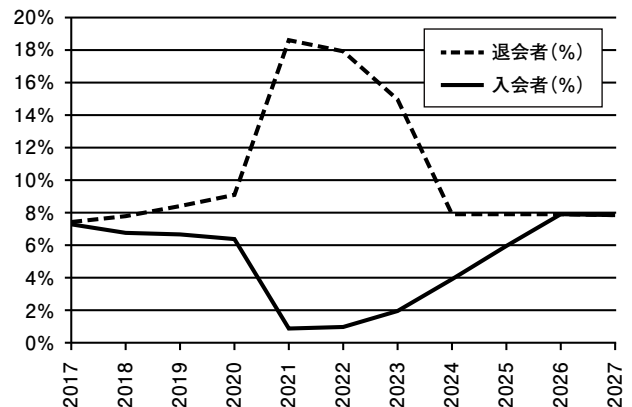
この3月号で現在の状況をご説明し、5月号では会費の見直しについてのシミュレーションを示させていただきます。会員の皆様には、厳しい事情をご理解いただき、ご協力賜りますようお願いいたします。

- ① 高齢化、コロナ禍に伴う会員数の減少が暫く継続すると思われ、状況によっては7,000人程度まで減少することが懸念されます。
 - A) コロナ禍による例会休止等による退会が当分続くと想定される。
 - B) 高齢化による会員の健康や家庭の事情等による退会者の増加が見込まれる。
 - C) コロナ禍の影響等で、初心者講習会の参加者確保の困難が予想され、入会の増加傾向までしばらく時間を要する。
- ② S協には事業収入が殆どなく、会員の会費が収入の大半を占めています。
- ③ コロナ禍に伴う財政の悪化を乗切するため緊急措置として次のような対策を検討、一部実施を開始しています。
 - A) 事業は当面、会員増加、会員サービスに関係する事業を中心に実施。
 - B) 機関誌は当分の間、年6回から年4回発行とし経費を節減。
 - C) 理事会、委員会等の業務を精査し、ウェブ会議の活用により、会議費・交通費等を削減。
 - D) 役員活動費は、当分の間半額に減額（会員減により統括支部選出理事定数を減）。
 - E) 普及活動の拠点となる統括支部への活動費は規定どおり配布（配布総額は会員減に応じて減額。各統括支部の財務状況を考慮した配分方法の検討）。
 - F) 事務所の移転の是非、事務局業務の精査、

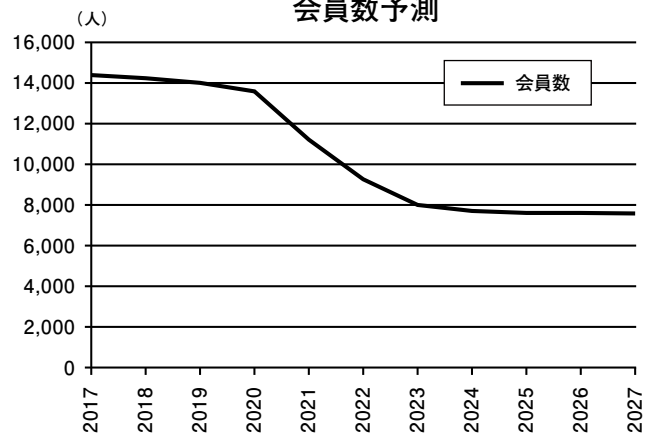
経費の削減。

- ④ 経費の最大限の節減を行っても年度予算が赤字になるため、固定資産（基本財産）を取り崩して活用することを検討します。
- ⑤ 経費削減に取り組んでいるところですが、今の会費（普通会员：2,000円）では、3年後の2024年度には協会の資産は無くなってしまいます（財務破綻します）。

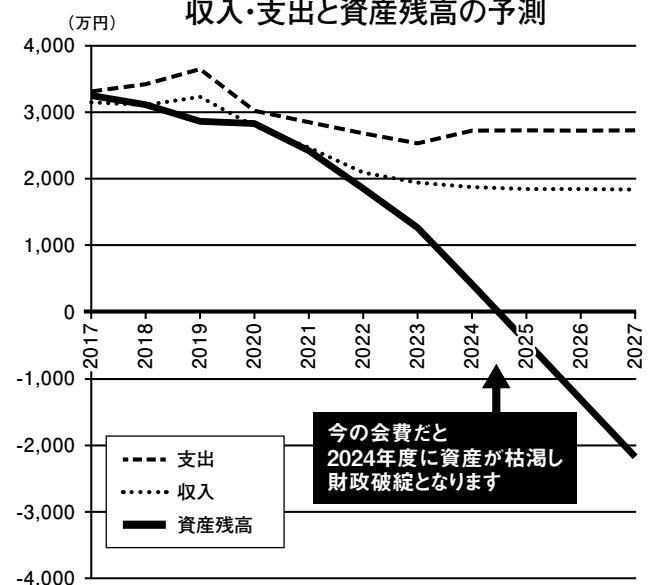
退会者率と入会者率の予測



会員数予測



収入・支出と資産残高の予測



今の会費だと
2024年度に資産が枯渇し
財政破綻となります